

〈学校経営方針の重点〉
1. 確かな学力の向上 2. 豊かな心の育成 3. 健やかな体の育成 4. 地域と共に歩む学校づくり

【経営目標】 基礎・基本を大切に、「学ぶ楽しさ」「分かった」「できた」という達成感をもたせられる授業づくりを行う										
【本年度の重点】 自分の考えを整理し、伝える力を伸ばし、基礎・基本の定着を図る										
具体的な方策	評価	担当	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄					
					評価	コメント				
<p>校内研究を柱に、言語活動・読書活動に力を入れ、主体的な学びの工夫・授業の改善を図る。</p>	B	研究	<p>①国語の教科書改訂に伴い、教科書に掲載された本を未購入のケースがある。図書の充実が必要だ。 ②10月末までは学活に時間を割けなかったが、年度末や次年度を見据え、改善を図る。 ③図書委員会や校長、外部講師による読み聞かせなど、読書活動が充実していた。 ④話し合い活動を通じて、他者理解が深まると考えられる。 ⑤読み聞かせや読書表彰、図書委員会の本の紹介など、読書に親しむ取り組みが豊かだった。 ⑥校内研究と学力向上の関連性については引き続き検証し、系統立てた手立てを検討する必要がある。 ⑦特別活動を研究テーマにしたことで学級活動が充実し、友達を思う気持ちが育ち、クラス経営の安定にもつながった。 ⑧読書カードを活用した読書活動に一定の成果が見られるが、高学年では読書時間の確保が課題であり、改善が求められる。 ⑨学級会をさらに充実させることで、言語活動の活性化が期待できる。</p>	<p>①計画的に購入していく。(図書担当が司書にリスト(教科書等)を渡し、司書がとりまとめ、) ②削除(本来は、年間計画にそってすすめるものである) ③④(学芸) ⑤継続する。(学芸が判断) ⑥特別活動が充実し学級が安定することで、学力向上にもつながりやすい。とはいえ、校内研究との関連を検証するのは難しいので、今後検討していく。 ⑦継続する。 ⑧読書の時間の確保は難しい。学芸に検討・工夫をお願いしたい。 ⑨継続する。</p>	B	<p>①本を計画的に購入することに加えて、購入時期にも配慮すべきである。 ④学芸会や言論大会を行うなど、発言力のある児童を育成してほしい。 ⑥検証は難しいかもしれないが、友田小バージョンの検証方法の早期確立を希望する。 ⑧読書時間を確保するために家庭での読書時間が増えるような方策を検討してはどうか。 ⑧学芸に任せきりにするのはなく、組織一丸となって取り組んでほしい。 ①③⑤⑧読書は幼少期に大切なことであるから、数多くの本を読み、その中から自分が興味を持てるものを見つけることができるような環境を充実させてほしい。 ④⑨自分の考えや気持ちを適切に言葉で伝える力、他者の考えや気持ちを聞き受け止める力の両方が話し合い活動を通して育つとよい。更なる活性化を望む。 ①③④⑤⑥⑦⑧⑨継続するものについても、改善や工夫をプラスしながら継続してほしい。</p>	<p>①計画的に購入していく。 ③⑤今年度以上に読書に親しむ時間を増やすような取り組みを考えていく(学芸より)。 ④は学芸だけでなく、学校全体の教育活動において、話し合い活動を重視していく。 ④通常の授業の中で話し合い活動を継続して行っていく。また、青梅市主張大会に取り組んでいるので、同じく継続して取り組ませたい。 ⑥校内研究として、学年の実態を踏まえ系統立てて取り組んでいるので、来年度も校内研究内で検討をしていく。 ⑧朝時間の活用や家庭での協力を得ながら、読書時間のアップを目指していく(学芸)。 ⑦⑨来年度も特別活動を継続して研究していく。</p>			
			<p>タブレットなどICT機器の効果的活用、紙とデジタルの有用性を考慮し、学習指導を充実させる。</p>	B	学情図	<p>①長期休業中にICTサポーターの研修を受け、授業に活用する機会を得た。 ②回線速度の問題が課題として残る。 ③各学級でタブレット学習を積極的に取り入れ、学習意欲を引き出している様子が見られる。 ④ドリル学習以外でのICT活用が十分ではなく、学習指導の場での具体的な活用例を共有し、実践を深める必要がある。 ⑤学校全体でICT機器の活用が進みつつあるが、より充実した取り組みを目指し、常態的な活用を進める必要がある。 ⑥ICTありきの授業は避けるべきだが、一定の使用を習慣づけることで、紙とデジタルの選択がしやすくなる。 ⑦特に学習意欲が低い児童にとっては、端末の活用が意欲向上に有効であり、活用の幅を広げることが求められる。 ⑧デジタル教科書の活用方法を知りたい。</p>	<p>②回線速度については一度更新があったが依然として不十分なので、市への要望を続ける。 ④⑤各クラスに大型電子黒板がないことから、常時的な活用が難しい面がある。全クラスに常設できるように要望していく。 ③④引き続きOJTを活用するなどして、端末の有効な使い方を教員間で共有できるようにする。 ①⑥⑦⑧研修の時間を教務と相談し、ICTサポーターにOJTで各種ICT機器の使い方を教えてもらう機会を定期的に設定する。</p>	B	<p>①④ICT機器をより有効に活用するためには、教職員や児童に機器の取り扱いや使用方法の習熟度を向上させる必要がある。 ③⑤⑦ICTを活用することで学習意欲が高まる児童がいるとのことなので紙の教材とバランスを取りながら教育活動を進めてもらいたい。 ②④⑤市(教育委員会)に要望を出すときには、必要なものを精査することが必要である。 ⑤OJT等の教育機会の設定と目標を明確にして取り組む必要がある。 ⑥友田小学校の「特色ある教育」を構築するために、ICT教育を友田小の特色と位置付けてはどうか。 ②回線速度が遅いのは大きな問題なので、早期に改善されるようお願いしたい。</p>	<p>①③④⑤⑧引き続きOJTや個人研修などを活用することで、端末の有効な使い方を教員間で共有し、児童の指導に生かしていく。 ②⑤効果的な学習利用のため、回線速度の向上や電子黒板の常設を市へ要望していく。 ⑥⑦児童の実態に合わせて紙とデジタルのバランスを取り、児童が意欲的に学べるようにしていく。ICT教育を推進しつつ、友田小の実態に応じた特色ある教育を考えていく。</p>
						<p>学習課題を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。朝学習(算数友小ドリル、電子ドリル)の学習を中心に、既習事項の習熟を図る。</p>	B	教務	<p>①1・2年生の学習内容でつまづく児童が多いため、下の学年向けの「友小ドリル」を取り組ませる必要がある。 ②友小ドリルや電子ドリル、漢字検定への取り組みは習熟を図る上で効果的だったとの評価がある一方、家庭学習が難しい児童への対策も重要と考えられる。 ③特に低学年では、電子ドリルに楽しく取り組む姿が見られる一方で、扱いに慣れるまで時間がかかったという課題がある。 ④算数の「友小ドリル」は、未履修問題が多いことが原因で十分に活用できていない現状がある。 ⑤朝学習では、成績の即時改善には繋がりにくいものの、少ない量でスモールステップを重ねることで自信をつけ、学習への抵抗感を軽減する効果が期待できる。</p>	<p>①⑤引き続き取り組ませていく。復習にもなるので、一定の効果はある。 ②既習内容の定着が学習意欲につながるのので、友小ドリルで学習の仕方を学び、家庭学習でも安心して宿題等に取り組みやすくなる。 ③デジタル教材は、慣れるしかない部分もある。来年度から青梅市全体でミライシードを利用していき、積極的に活用していく。 ④1年生の内容で、未履修のものがあったようなので、再度内容を確認する。他の学年は前学年のものがベースになっているので、こうした問題はない。 ※学力に課題がある児童は個別対応が必要なので、宿題の量を調整するなど個別に指導をしていく。家庭状況によっては、宿題を見てもらえない家庭もあるため、まずは、基礎学力を定着させる取り組みをおこない、最低限宿題は自分でできるようにする。</p>
【経営目標】 命を大切に、思いやりの心や社会規範を身に付けた子供を育成する										
【本年度の重点】 基本的な生活習慣を養うとともに、豊かな関わり合いを通して、いじめをなくし、他者を大切にすることを育成する										
具体的な方策	評価	担当	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄					
					評価	コメント				

2 豊かな心の育成	挨拶について、各学級で指導し、振り返りの時間を設ける。家族、友達、教職員、地域の知り合い等に、自分から挨拶ができるように指導する。	B	生活	①あいさつの指導はどの学級でも行われているが、廊下や昇降口で職員からあいさつすることで、児童の意識を高める必要がある。 ②あいさつの輪運動や児童会のあいさつミッションカードの取り組み期間中は、自分からあいさつできる児童が増えるが、期間後もあいさつを返してくれる児童が前年度より増えているように感じられる。 ③自分からあいさつできる児童とそうでない児童の差が大きい。継続的な指導が必要である。児童アンケート、保護者アンケートでは8割の家庭ができていると答えている。 ④挨拶運動の回数を増やすことや、たてわり活動を充実させることで、他学年との関わりを増やし、あいさつを習慣化させることが期待される。 ⑤児童会の取り組みが効果的だったため、次年度も引き続き継続することが望ましい。 ⑥登校時より下校時のほうが挨拶が多いと感じている。	挨拶はまだ十分とは言えないので挨拶の習慣化を図るため、児童会活動とも連携して引き続き挨拶を呼び掛けていく。	B	③児童・保護者アンケートを実施した項目について改善していくためには「できていない」と回答している理由を把握する必要がある。 ①②③④⑤⑥挨拶はコミュニケーションの基本となるものなので、根気よく継続して取り組んでほしい。 ①②③④⑤⑥児童はよく挨拶をしてくれる。大人も気を付けていくべきである。(学校だけでなく家庭・地域の取り組みも重要であると思う)。 ②④地域と連携した挨拶運動を検討してほしい	挨拶はまだ十分とは言えないので挨拶の習慣化を図るため、児童会活動、家庭や地域等とも連携して引き続き挨拶を呼び掛けていく。
	「やさしい言葉はやさしい心」を意識させ、相手の気持ちを考え、時や場に応じた丁寧で正しい言葉遣いについて指導する。	B	生活	①授業中に「がんばれ」「ありがとう」「ドンマイ」といった言葉を使うよう指導し、できた際にはすぐ褒める取り組みを行った。 ②「いいこと見つけの花束」の取り組みが相手の気持ちを考える姿勢を育てる効果を発揮し、ここ2年で児童の成長が見られる。 ③児童同士の会話には改善すべき点が残るが、以前より言葉に気を付ける意識が芽生えつつある。 ④一方で、低学年にも言葉遣いの悪い児童が見られることから、学校だけでなく家庭や地域の協力が必要と考えられる。 ⑤生活指導はどの学年も丁寧に行われているが、言葉遣いに関しては家庭環境の影響が大きい。学校だけでは対応が難しい。保護者への協力を求めることも重要である。 ⑥優しい言葉をつかえている児童が少しずつ増えてきているように感じる。	「やさしい言葉はやさしい心」をもっと頻回に取り上げ、児童の心に浸透させていく。学級が落ち着いてきている中で、引き続き安心した学校環境を維持していくことができれば、やさしい言葉遣いができる児童が増えていく。家庭での言葉遣いが学校でも出てしまうことがあるため、家庭とも連携して取り組んでいく必要がある。そのために、保護者会等で周知したり、全校朝会等で指導した内容を学校だより等で取り上げたりして家庭に共有していく。言葉の引き出しがないことも原因として考えられるため、正しい言葉のインプットも必要である。	B	③児童・保護者アンケートを実施した項目について改善していくためには「できていない」と回答している理由を把握する必要がある。 ①②③④⑤⑥感謝と思いやりの心を育むことにつながるので、今後も継続して指導してほしい。家庭との連携も重要である。 ⑥諸事情から学校で動物を飼いにくくなってきているのは理解しているが、児童の情操教育には有効であると思う。 ①②③地域と学校の連携した、言葉遣いに関する活動をスタートさせたい。	「やさしい言葉はやさしい心」を家庭とも連携し、児童の心に浸透させていく。正しい言葉遣いも併せ、指導していく。
	児童相互の交流活動の充実を図り、互いを思いやり他者を意識した行動ができるよう指導する。また、いじめの芽となる人間関係の調整を早期に行い、安心して生活できる教室環境を築く。	B	生活	①小集団指導において、相手が良い気持ちになるためにはどうすればよいかを振り返るなど、コミュニケーションが良好に取れるよう配慮している。 ②どの学級も落ち着いた学校生活を送っており、児童同士の関係も安定している。保護者アンケートでは8割の家庭が思いやりをもっていると答えている。 ③学校全体でいじめの芽に早く気づき、行動を取ろうとする意識が共有されている。 ④児童の訴えに丁寧に耳を傾け、人間関係の早期調整を図る姿勢が全職員に浸透している。 ⑤いじめについてはアンケートや児童の訴えを活用し、適切に対応できていると感じられる。各学年の担任が児童との信頼関係を築いていることが大きな強みであり、これを引き続き重視していくことが重要である。	子供にとって安心できる学級づくりに努め、児童の訴えに丁寧に耳を傾け、人間関係の早期調整を図る姿勢を継続していく。	B	③児童・保護者アンケートを実施した項目について改善していくためには「できていない」と回答している理由を把握する必要がある。 ③いじめ対応で重要な予防と初動の速さを継続していくべきである。 ③④⑤教職員と児童とのコミュニケーションができれば、少しの変化にも気づくことが可能となるので、継続して指導してほしい。 ①②相手の気持ちになって考えることができる児童を育てることは大切であると考えられる。 ④児童間のトラブルに関しては、教職員が丁寧に対応してくれている。 ⑤教職員の努力に敬意を表する。児童との信頼関係をこれからも大切にしてほしい。	子供にとって安心できる学級づくりに努め、児童の訴えに丁寧に耳を傾け、人間関係の早期調整を図る姿勢を継続していく。
	B	特活	①他者との距離感については、ロールプレイを通じて具体的な指導を行っている。 ②たてわり班活動の増加が特に効果的であり、児童は関わりの中で大きく成長していると感じられる。特に単学級の場合、この活動の意義が大きい。 ③たてわり班活動では、高学年が低学年に思いやりを持って接し、リーダーシップを発揮することで成長の機会となっている。 ④たてわり班活動を教育活動の核に据えることで、互いを思いやる気持ちを育むことができる。活動の幅を広げるために、班遊び以外の活用方法(例：なわとび句間やたてわり班掃除の導入)も検討されている。 ⑤特別活動やたてわり班活動が充実してきたことで、児童同士の関わりが徐々に深まりつつある。今後さらに充実させるため、活動の精査を行い、効果の薄いものを削減して特別活動に重点を置いていくことが期待される。	①児童が安心して過ごせるよう引き続き指導の工夫をしていく。 ②③④⑤昨年度よりたてわり班活動の回数や時間を増やし、児童相互の交流を充実させることができた。児童のリーダーシップや互いを思いやる心を育てることにもつながったと感じる。特別活動として今後も活動の精査をし、よりよい人間関係が築けるよう努めていく。	B	①②③④⑤継続して指導してほしい。 ③行事等で、6年生がリーダーシップを発揮したことで、たてわり班の活動が充実したのだろうと考える。	様々な特別活動を通し、児童相互の関係を深め、児童のリーダーシップや互いを思いやる心を育てていく。	

〔本年度の重点〕
健康な心と体を育成するため、自ら運動に親しみ、健康への意識を高め、心身共に健康的な体を育てる

具体的な方策	評価	担当	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
					評価	コメント	

3 健やかな体	「1日1回は外で元気に遊ぶ」を奨励し、持久走・縄跳び・縄跳び・縄跳びを重点に、運動に親しみ、体力を高める。	B	体育	①外に出たがらない児童への対応について、他の教職員の取り組み事例を共有し合う必要がある。 ②休み時間には元気に外で遊ぶ姿が見られるが、学年によって外遊びに積極的な様子に差がある。1・2・4年生は外に出る児童が多い一方、それ以外の学年では一部の児童にとどまる。 ③持久走週間や縄跳び週間はこれから実施される予定であるが、夏季は高温の影響で外遊びを奨励しにくいという課題がある。 ④行事が多いため、一つ一つの取り組みにじっくりと向き合う時間が不足しており、活動の意義や目標を児童に十分に伝える機会が少ないことがもったいなく感じられる。 ⑤引き続き外遊びの奨励や、季節ごとの工夫を凝らした活動を推進することが重要である。	①校長や児童（運動委員会など）から朝会等を利用して声掛けを行うなど工夫していく。 ②高学年はどうしても厳しい部分があるが、①と同様に意識を高めていく。 ③長時間冷房を使っても財政的に可能な体育館での遊びも検討していく。 ④委員会内でも重く受け止めている。少しでも減らすことで児童・教員とも余裕をもって一つ一つの活動に向き合えると考える。教務と相談して、間隔の調整（特に2学期）や行事の削減を考えていく。	B	①②工夫し、良いものを積極的に取り入れていくことが大切であるとする。 ③児童・保護者アンケートを実施した項目について改善していくためには「できていない」と回答している理由を把握する必要がある。 ④行事の内容を精査し、必要なものを残す。 ①⑤外で遊ぶ楽しさや体を動かす爽快感をもっと児童に知らせるために、教職員の努力を望む。 ①②③⑤夏季の外遊びは熱中症等への配慮が必要だが、できる限り体を動かす習慣を身に付けてほしい。	①時期に合わせ、引き続き、外遊びを奨励していく。また、年2回程度、生活目標を設定し、外遊びをよびかけていく。 ④行事と行事の間隔を調整する。
	体育指導（運動の量・質など）を充実させ、体力向上、健康増進、運動の日常化に努める。	B	体育	①体育の授業の実際の様子や運動量、質についての詳細が把握しにくい状況がある。 ②運動量はある程度確保できているかもしれないが、質の向上には授業力のさらなる向上が求められる。 ③運動の日常化には引き続き課題があり、児童が運動を自然に取り入れる習慣を育むための工夫が必要である。 ④体育指導を系統立てて行うためには、教育計画の見直しを進めることが重要と考えられる。 ⑤縄跳び旬間は1月なので、まだわからない。持久走は頑張っていると思うが、行事が重なりすぎているように思う。	①②体力テストの分析を通して、平均を下回っている項目の強化を行っていくように工夫していく。必要に応じて予算を使って教具を買いそろえていく。 ③前項目の①を充実させていく。 ④配当する時期等を考え、準備等を共有することで、より授業内容の質を向上させていく。 ⑤前項目の④を参照。	B	⑤行事が多い、あるいは重なりすぎているということが成果につながらないとするならば、行事の実施そのものを検討する必要がある。 ①②③④引き続き継続を望む。 ③奥多摩溪谷駅伝での友田小の活躍は素晴らしいと思う。 ②③まずは、子供たちに「運動は楽しい」思ってもらえるよう工夫と努力が必要である。	前項目を参照 ①体力テスト等の分析を通して、児童の実態に即した指導を工夫する。必要に応じて教具を活用していく。
	定期健康診断の結果や児童の実態をもとに、児童及び保護者の健康管理への意識啓発に努める。	B	体育	①保護者の意識をさらに高めていくことが必要であり、こちらの仕事量を増やすことなく、より効果的な情報提供を目指す。 ②保健だよりは見やすく、内容も充実しており、保護者への情報提供がしっかり行われている。 ③定期健康診断の結果を基に、青梅市全体との比較を取り入れて実態を周知しようとしているが、受診率は依然として低い。児童だけでなく、保護者の健康管理への意識を引き続き高める必要がある。 ④月1回の保健だよりは内容が非常に良いが、その手紙が保護者に確実に届いているか、また実際に読まれているかが課題となる。読まれたとしても、どれだけ実践されているかが不明。 ⑤これ以上の効果を期待するのであれば、オンライン研修や動画配信を通じた啓蒙活動が有効である可能性がある。	引き続き定期健康診断の結果や児童の実態をもとに、保健だより等の紙媒体での配布を行い、児童及び保護者の健康管理への意識啓発に努めていく。保護者に確実に届けるため、今年度から保健だよりのスクリーン配信も行っており、継続して行っていく。受診率については、青梅市全体で低い傾向にあり、本校でも昨年度43%と決して高くない。9月末までに治療報告書の提出がない家庭に対して保護者にリマインドをするため、治療経過についての確認のお知らせを個別に連絡帳に貼付させたところ、反応のない家庭が多いものの、9月末38%から11月末44%でわずかに増加した。この取り組みを継続し、児童の健康を守るための保護者の意識を高めていく。	B	①保健だよりのスクリーン配信は情報提供の方法として有効であるとする。 ③なぜ受診率が低いのか、原因をはっきり分析すべきである。そのうえで受診率100%を目指す。 ④反応がない保護者については、個別のアプローチを繰り返し行うことで、どのような反応があるか見守っていくのはいかがでしょうか。 ①③子供の健康管理は保護者の責務と考える。 ①②③④⑤健康管理についての意識啓発について積極的に取り組んでいると感じる。	引き続き、保健だよりやスクリーンを活用し、児童及び保護者に健康管理への啓発を行い、意識を高めていく。

4 地域と共に歩む学校づくり	【経営目標】 学校・家庭・地域が一体となった開かれた学校をつくる						
	【本年度の重点】 地域の教育力を活用し、教育活動の充実を図り、郷土愛を育む。						
	具体的な方策	評価	担当	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄	学校の見解と今後の方向性
						評価	コメント
学校・学年での様子を、各種便り、スクリーン・HP等を活用して広く公開する。	B	学情	①図書や寄贈本や読書旬間の様子を保護者や地域に知らせる取り組みが行われている。 ②地域が望む学校像が時代に合っていない可能性があり、地域のニーズを再確認し、アップデートを図ることが必要である。 ③PTAがどんと焼きを担当する現状は負担が大きく、改善が必要であるとする。 ④スクリーンの配信タイミングが紙媒体のおたより配布とほぼ同時になっており、保護者への情報提供がスムーズになってきている。 ⑤紙媒体のおたよりとスクリーン配信を併用して学校の様子を発信しており、情報提供は概ねできている。 ⑥一方で、ホームページの活用が進んでおらず、さらなる情報発信の場としての活用が課題となっている。	・②③地域のニーズを確認しつつ、学校としてできることを協力していく。 ・④⑤⑥ホームページの更新については、年度当初に決めた計画にそって行っている。それ以上の活用や日々の様子の更新頻度を上げるといったことになると、さらに負担が増えることになるが、教員側としては授業準備等にかかる時間を優先したいのが現状である。学校長が各クラスの学習の様子を巡回ついでにアップしているところもあると聞くが、どうか？ 【学校長の見解】年度当初の計画にそって進める。管理職としての職務を優先していくが、学期に1回程度アップ作業に協力していく。	B	①②④⑤引き続き継続を望む。 ④⑤⑥ホームページでの情報提供もスクリーン配信と同程度の内容が必要である。 ①⑥限られた人間に負担が集中しないよう、配慮をすべきである。 ④⑤スクリーンは有効活用されていると感じる。 ⑥ホームページの意義は何なのか整理する必要があると考える。 ②地域のニーズを知るために学校と地域が活発に議論をしていく必要がある。	①②④⑤引き続き取り組んでいく。 ⑥スクリーン配信は事務連絡も含むので頻度が高くなる傾向にある。ホームページでの発信については、前年度より増えているので、他の業務とのバランスを取りながら、なるべく多く発信できるよう引き続き努力していく。
地域人材の活用や文化財に関する学習や自然環境を生かした学習等を通して地域愛を育む教育（青梅学）を実践する。	B	教務	①本気で地域連携を進めるなら、市教委にもっと積極的に動いてもらいたいとの声がある。現状では出張回数も少なく、取り組みに熱意を感じにくいとの指摘がある一方、現状のままでも十分との意見もある。 ②地域の教育活動についての実態がよくわからない部分があり、人材や実践例の一覧などの情報整理が求められる。 ③読み聞かせボランティア、ヤマメ飼育体験教室、稲づくり、地域安全マップ作りなど、地域の方々と関わりを持つ機会が多く、児童にとって地域愛が育まれる環境が整っている。 ④一方で、地域の祭りやイベントの運営・指導に関わる方の負担が大きいが懸念されている。 ⑤これ以上カリキュラムを増やすのは困難であるため、総合学習や生活科の内容を地域連携を活かした方向に大きく変更することを検討してもよいのではないか。	①③④⑤今年度は、地域との連携を深めることができたように感じる。一部がかかわるものもあれば全体で動いていくものもあるが、負担はそれぞれ違う。これ以上内容を増やしていくのであれば、抜本的に勤務形態を変えていく必要がある。	B	①②③⑤必要に応じて教職員の負担を減らしながら、引き続き継続を望む。 ②③④⑤地域との関わりから、郷土愛をもつ児童の育成を引き続きお願いしたい。 ②③④地域の力が落ちてきている中、学校はとても良い活動をしていると思う。	①②③④⑤活動内容を精査しながらも、地域の方の力をより多く活用しながら、児童が郷土愛をはぐくめる学習や活動を取り入れていく。 児童・保護者や地域の方が参加できる情報を学校から発信し、地域の活動へ参加できる機会を作っていく。
【経営目標】 指導力等の向上を図り、組織的で協働的な学校体制をつくる							
【本年度の重点】 業務の効率化を目指しつつ、指導力の向上等、人材育成を推進する							
具体的な方策	評価	担当	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄	学校の見解と今後の方向性	
					評価	コメント	

	<p>教職員間の連携を密に取り、校内研究やOJT研修会などの学び合いを通して、教員の資質や指導力向上を図る。</p>	B	<p>担当</p> <p>①今年度の特別活動に関する校内研究は、講師の指導や事後検討を通じて多くの学びを得られ、有意義な取り組みであった。人が少ない中でも充実した研修となった。</p> <p>②校内研究や研修の講師は質の高い方ばかりで、内容が非常に勉強になると感じられる。</p> <p>③校内研究の授業研究は、担当の担任に任せられる割合が高くなりがちであり、負担の偏りやフォローの難しさが課題として挙げられる。</p> <p>④OJTを積極的に企画し、導入されたシステムの使い方を短時間で共有するなど、効率的な研修が行われている点は非常に有意義である。</p> <p>⑤OJTだけでなく、校内研以外でもお互いの授業を見合う機会を設け、実践的な学びを深めることが求められる。</p> <p>⑥校内研究では、特別活動の充実や計画的なOJTが行われたことは良い成果であった。今後はさらに計画を充実させ、様々な教員の特長を共有する機会を増やすことが期待される。</p>	<p>①②継続して取り組んでいく。</p> <p>③友田小は単学級のため、授業者が指導案を作るとなると自分のクラスで授業をすることを考えると指導案内容の分担は難しい。全体的に行事等で負担を分散することが大体的。</p> <p>④継続する。</p> <p>⑤継続する。</p> <p>⑥来年度もOJT担当がそのようにする。</p>	B	<p>④忙しい中、継続してOJTの取り組みが行われていることは、素晴らしいことだと思う。</p> <p>①②③④⑤⑥⑦⑧教員として研鑽を積むことは重要なので、是非継続してほしい。</p>	<p>教育課題や教員の専門性等の学び合いへ向け、OJT研修会の充実と持続可能な運用を図っていく。</p> <p>教育実習生の指導育成を通して、「教えることを通し学ぶ」機会とする。</p>
5 その他の重点	<p>「チーム友田小」として、教職員がそれぞれの持ち味を発揮し、協働して指導にあたる。教育目的を担保しつつ、業務の見直しおよび効率化など、働き方および働きがい改革を推進する。</p>	C	<p>管理職</p> <p>①主幹以下の教員が安心して安全に職務を遂行し、定時に近い時間に帰宅できる環境を整えるためには、管理職による業務見直しがさらに進められることが期待されている。「現状を変えよう」という強い意識の共有が課題である。</p> <p>管理職</p> <p>②東京都教師養成塾生の採用に関しては、フォロー体制の具体案を早急に策定し、業務負担を軽減する取り組みが求められる。</p> <p>管理職</p> <p>③今年度、講師やエデュケーションアシスタント(EA)、SSSを多く確保できたことは、働きやすさの向上に繋がった。また、教職員同士が良いところを認め合い、協力しやすい雰囲気が出てきている点も、職場環境の改善として評価されている。また、副担任業務の一部をSSSに移管するなど、業務分担の見直しが進むことで、さらに教員の負担軽減が図られることが期待されている。この流れを継続し、より効率的な体制を目指していく。</p> <p>管理職</p> <p>④働き方改革については前年度より改善が見られる一方、依然としてマンパワー不足が課題である。「小規模校で拠点校」という条件から、職員が一定数学校にいないという現状がある。特に学級担任や専科教員に負担が集中している状況から、業務内容の精査や学校行事の見直しについて検討が必要である。</p> <p>管理職</p> <p>⑤各分掌の副主任の役割について、その明確化が求められている。現状では十分に機能していないと感じられる部分もあり、来年度に向けて役割の再定義が必要である。</p> <p>管理職</p> <p>⑥業務量のバランスに関して、改善が不十分との声がある。引き続き業務内容の精査と最適化のための取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>管理職</p> <p>⑦「働きがい改革の推進」として具体的にどのような施策が予定されているのかについて、情報共有を望む。</p> <p>管理職</p> <p>⑧講師が増員され授業の負担は軽減されたが、それ以外に課題があったり、講師との打ち合わせる時間の確保が難しく、時間外となることがあった。</p>	<p>①管理職と教員が知恵を出し合い、引き続き業務改善に努めていく。</p> <p>②養成塾生の採用に関しては、経営会議で検討し、その意義について教職員全体に周知した。管理職としては、塾生を指導し、育てることが、本校の教員の成長にもつながると考える。</p> <p>③教職員一人一人の業務が効率的に機能していくよう、人材の確保や職場環境の改善に努めていく。</p> <p>④数年前と比較すると様々なスタッフも増え、業務改善は進んでいる。スタッフの活用を含め、一人一人の業務の特色を踏まえ、業務内容を整理し、改善に努めていく。</p> <p>⑤ブロック副担任は継続。今年度同様業務を明示する。年度初めにブロックごとに分担を明確にする。分掌の副主任を来年度も設置するかについて、経営会議等で検討していく。</p> <p>⑥改善を図っていくが、与えられた役割や分掌によって、ある程度の業務量の差が生まれるのはやむをえないと考える。</p> <p>⑦文部科学省や東京都から示される資料等を活用しつつ周知を図っていく。</p> <p>⑧講師人材の確保によって、特に担任やくわのき教室の教員の負担軽減を図ることができた。打ち合わせについては毎回でなくとも事前に予定を合わせたり、文面等で伝えたりすることで対応していく。</p>	B	<p>①②③④⑤⑥⑦⑧業務量が多く、負担の大きい状況の中で、改善に向けて取り組まれていることは素晴らしい。</p> <p>①②③④⑤⑥⑦⑧管理職と教職員が協力して改革を継続し、「チーム友田小」を理想へと近づけていってほしい。</p> <p>①②③④⑤大変であるとは思いますが、改革に終わりは無い。校内一丸となって良い方向へ友田小を導いてほしい。地域も協力する。</p> <p>①②③④⑤⑥⑦⑧リスクリングの導入を検討してはどうか。</p>	<p>各々の役割に違いはあるが、できるだけ業務のバランスがとれるよう工夫・配慮していく。そのために、週持ち時数減に向けた講師配置、ブロック副担任による業務応援、スタッフの効果的な活用を進めていく。今後も教職員で知恵を出し合い、効率的な業務内容や方法の改善を図っていく。</p>
その他、自由意見			<p>教務</p> <p>①校務分掌の活性化や業務効率化を目指し、部会の設定日を事前に計画的に組み込むことで、運営がより円滑になることが期待されます。休憩時間の会議等は行わないようにしていきたいと考えています。</p> <p>管理職</p> <p>②働き方改革を進める中で、夕方の留守番設定時間をより早い時間に変更することで、教職員の負担軽減につながると考える。</p> <p>管理職</p> <p>③教員数が限られる中で全体周知が行き届かない場合もあるため、より効果的な周知方法について検討が必要である。</p> <p>管理職</p> <p>④エデュケーションアシスタントやSSSのサポート増加により学級が安定していることから、副担任制の見直しを検討し、柔軟な役割分担を行う運用も一案ではないかと考える。</p> <p>管理職</p> <p>⑤夕方に管理職が学校に常駐し、教職員が相談しやすい体制を整えることで、さらに円滑な校務運営が可能になると考える。</p> <p>教務</p> <p>⑥低学年の遠足を秋に移し、生活科見学と統合することで行事の簡略化を図ることができると考える。また、行事と行事の間隔を十分に確保することで、計画の円滑な運営に資すると考える。</p> <p>教務</p> <p>⑦教職員がより快適に業務に取り組める環境を整えるために、教室用の事務椅子の購入や交換を検討する必要がある。</p> <p>教務</p> <p>⑧全校朝会を体育館で実施することで、児童が集中力して話を聞きやすくなるとの意見がある。移動時間も考慮し、実施方法の見直しについて検討が必要である。</p> <p>学情図</p> <p>⑨青梅市音楽会の日の昼食について、給食を弁当に変更することで、児童が学校に戻ってから落ち着いて食事ができると思う。併せて給食担当者の負担軽減にもつながると考える。</p> <p>学情図</p> <p>⑩充電保管庫の運用方法については、充電器を各家庭で保管する運用に移行することが、安全面と利便性の両面で適しているとの意見がある。家庭での保管状況の確認を行う仕組みを含め、検討が必要である。</p>	<p>①来年度は職員会議約1～2週間前に各部会での検討会を設定する。</p> <p>②来年度は青梅市全体として16:45に留守番電話を設定することが決定している。</p> <p>③Googleのアカウントをほとんどの職員がもっているため、Googleのアカウントを使用してどこからでもアクセスができるシステムを現在検討・準備中である。</p> <p>④教職員から具体的な要望や案を吸い上げ、来年度も副担任が無理なく効果的に機能するよう検討していく。</p> <p>⑤職場環境を整えるため、検討をしている。</p> <p>⑥今回の意見を反映させつつ、来年度の大きな行事について更に日程を検討していく。</p> <p>⑦事務と相談をしながら、予算の範囲内で順次改善を図っていく。</p> <p>⑧管理職と相談をし、R7年度から全校朝会を原則体育館で行っていく計画を検討しています。</p> <p>⑨保護者負担の増えることが懸念事項ではあるが、近年給食終了が遅くなり、給食配膳員からも苦情が来ている実態がある。管理職と相談し、来年からは弁当の方向で検討する。(「年間185食の給食は確保する」?)</p> <p>⑩タブレットセットは基本的に持ち帰りが前提と認識している。が、各学年の発達段階や使用実態に応じて対応することが現実的と考える。</p>	B		<p>令和7年度から、部会を設定しました。</p> <p>左記の通りです。</p> <p>左記の通りです。</p> <p>左記の通りです。</p> <p>円滑な校務運営を目指していく。</p> <p>検討中です。</p> <p>左記の通りです。</p> <p>左記の通りです。</p> <p>改善策の通りです。</p> <p>改善策の通りです。</p>

	管理職・教務	①行事を通して児童の成長が実感できる一方で、行事が詰まりすぎたり、教職員の業務量が増加したりして、負担が大きくなっているとの意見がある。教職員が余裕をもてる環境を整えることは、児童の学びや成長にも良い影響を与えるものと考え。そのため、平常の学習がより充実して進められるよう、学校行事や取り組みを精選し、負担軽減を図ることが望ましい。	①職場の環境整備が効率よく進むよう、教職員から具体的な案を吸い上げつつ改善に努めていく。	B		左記の通りです。
--	--------	--	--	---	--	----------